



箱根登山電車

6月に入り、フランスのパリではセーヌ川の氾濫が警戒されていて、地下鉄は営業停止、ルーブル美術館では地下の展示物を上階に避難させる作業が行われているようです。最近で思い出すのはタイでの大洪水で、ホンダを始めとする日系企業が水浸しになったのが2011年10月。一方、茨城で鬼怒川の堤防が決壊したのが去年の9月で、他国の洪水も人ごととは思えません。

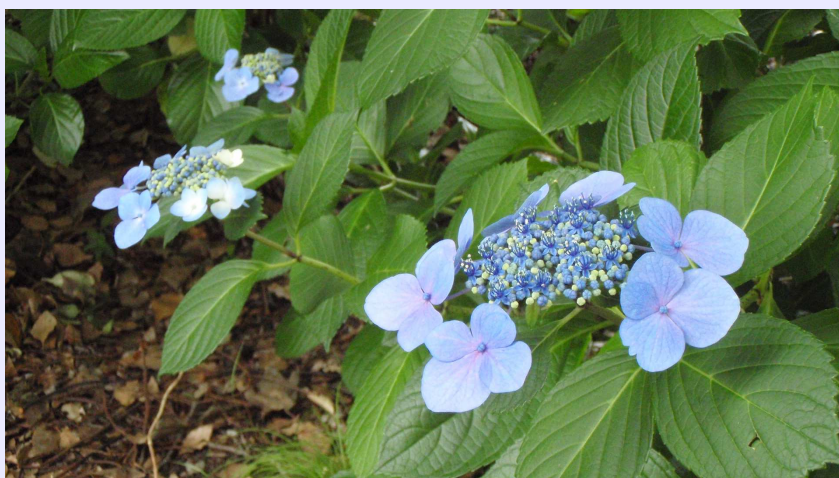
6月5日には、関東甲信地方が平年より3日早く梅雨入りしたとの発表がありました。梅雨に入って喜ぶのは雨蛙(あまがえる)とアジサイ(紫陽花)で、紫や白、あるいはピンクの花が一斉に咲き始めます。原産地は勿論(もちろん)日本、装飾花が周りを縁取る**ガクアジサイ**が原種であって、そこから色々な品種に改良されていった模様です。

アジサイの花言葉は「移り気」、ブルーから淡いピンクに変化するからだと思うのですが、これが顕著に目立つのは「**ホンアジサイ**」です。咲いてからしばらくするとピンク掛かって来るのは、細胞液のpHが有機酸の蓄積によって酸性化することによる一種の老化現象であると説明されています。

酸性化と老化の関係は人の体にも当てはまります。肉体労働した時に筋肉に溜まる乳酸は酸性で、揚げ物や甘いもの、そしてアルコールも身体を酸性側に傾ける要注意食品。筋トレ後、フライドチキンを食べながらビールをジョッキで飲み干す行為は最悪で、何もしないでテレビを見ながらゴロゴロしていた方が健康的かも知れません。

ところで細胞の酸度と土壌の酸度は別の話、土壌が酸性だからと云って老化が早まる訳ではなく、土壌にアルミニウムがたくさん溶け込んで、むしろ爽やかなブルーの色になるそうです。

アジサイと云えば、身近なところでは**箱根登山鉄道**の「あじさい電車」。一泊二日で箱根を隅から隅まで満喫するなら箱根フリーパス(2日間有効おとな5,140円)がお得です。これで**箱根登山ケーブルカー**から箱根ロープウェイ、さらに**箱根海賊船**に乗り継いで箱根を一周すれば、箱根観光の初級コースはほぼ卒業です。



ガクアジサイ(額紫陽花)



ホンアジサイ(別名: 西洋アジサイ)

東京下町 樹木探索

ハナショウブ



小岩菖蒲園

もう一つ、梅雨の時期に似合う花は「ハナショウブ」。ハナショウブが見頃と聞いて、早速でかけたのは江戸川河川敷にある小岩菖蒲園です。ここには400台が収容できる無料の広い駐車場があるので、気軽に出掛けることが可能です。江戸時代には船の「渡し」や「関所」があったとされている場所で、佐倉道(成田街道)と元佐倉道(千葉街道)の合流点でもありました。

「元佐倉道」とはその名の通り、元々は佐倉城と江戸城を結ぶ「佐倉道」であったところ。その後、北東の方角が鬼門であった為、江戸城に入るルートを北寄りに変更したのだと云う噂です。元佐倉道は小岩の関所から旧中川の「逆井(さかさい)の渡し」までほぼ一直線で、そこから豎川(たてかわ)北岸沿いに江戸城に至る最短ルートでありました。

今日は6月8日水曜日、梅雨に入ったというのに良いお天気で、テレビのニュースでは利根川水系のダムの貯水率が50%を割り、この時期として過去最低になったと報じています。

そんな折、元佐倉道(千葉街道)を通過して車で小岩菖蒲園に向かいます。元佐倉道沿いには古い道標や橋げたが残されていて、それはそれで興味深いのですが、個人的に興味があるのは菅原橋交差点。この交差点は11叉路(さろ)に成っていて、フランス・パリの凱旋門12叉路には僅かに及ばないまでも、東京最多の多叉路(たさろ)です。

そこから北東に約3km、はたして小岩菖蒲園まで来てみれば、水曜日にも関わらずおびただしい人出です。それもその筈、ハナショウブの花は今が見頃の時期で、薄紫や白い花が園一面に溢れています。

ところで、綺麗な和服を着た女性達を平等に褒めたたえる場合、「いずれ菖蒲(あやめ)か杜若(かきつばた)」と云う言い回しがありますが、ここに花菖蒲(はなしょうぶ)は出てきません。菖蒲(あやめ)と云う字は菖蒲(しょうぶ)とも読み、昔の人はそれほど厳密に区別していなかったのだらうと思います。

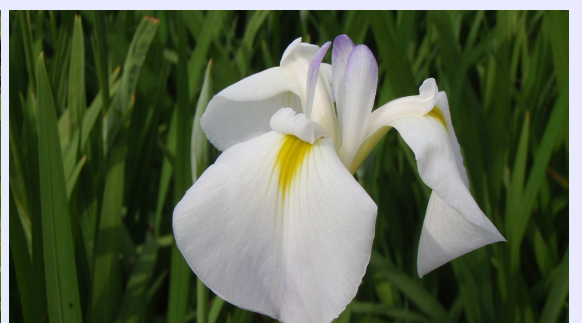
どうしても区別を付けたい場合には、花びらの根元部分の柄を見て、網目模様であればアヤメ、白ければカキツバタ、黄色ならばハナショウブと云った具合です。しかしながら、女性達を安易に区別しようものなら全員を敵に廻してしまうので、絶対止めた方が良いでしょう。



網目模様であれば「アヤメ」



白ければ「カキツバタ」



黄色ならば「ハナショウブ」